

大船山

第 20 号

令和5年2月24日

ホームページ <http://www.ena-gif.ed.jp/kamiyahagi-e/>

家庭学習の現在地は今どこに？

校長 細江 幸次

今年度も残り1カ月となりました。ここに来て新型コロナ対応が大きく変わろうとしています。マスク着用についても、これまでのような全員着用から個々の判断に任せられるような対応へと変わっていくようです。それに対して、今から「逆マスク警察」の出現を不安視する声も出ていて、コロナ禍によって顕在化した日本特有の同調圧力(そもそも欧米ではこのような概念はないらしい)はどうも簡単にはいかないようです。情報端末が個々にいきなり、自由に情報収集ができるようになっている今だからこそ、自分で考え、取捨選択し、合理的な自分の意志・考えを発信できるようにしていかなければなりません。もちろん、そこには必ず「自己責任」もついて回るということを認識しておく必要もあります。

この学校だより下欄でお知らせするように今年度の広重賞版画コンクールでは、上矢作っ子の作品が過去に見られないくらいたくさん入賞しました。上位入賞も複数あり、うれしい限りです。今年度はこれまでも多くの校外行事、コンクール・コンテストに沢山の上矢作っ子が挑戦し、頑張る姿や形として残る成果をあげることができました。これらのことは今年度意図的に取り組んできた、個々の主体性を大切にしたい家庭学習改革の成果であるにとらえています。様々なところで認められることがその子の自信をつけることにもなっていると私に伝えてきた保護者の方もお見えになるくらいです。自信=「自分を信じること」と考えると、何をするにしても自分が自分自身を信じられないことにはよい成果は得られないというのが私の強い思いです。

個々の主体性に任せる部分が大きくなった分、一方で安易な方に流れる傾向も一部に見られることも事実です。やる・やらないの二極化もより顕著なものとなってきました。それは、「面倒くさい」「ゲームがしたい」等の目先の理由から、「自分なりの目標がもてない」「やりたいことが見つからない」といった「自分との対話」が十分できていないということまで様々だろうと思います。家庭学習というのは「担任の先生に出すための勉強」ではなく、「常に自分で自分をアップデートしていくための営み」ということを忘れないようにしたいと考えています。中・高学年では段階を踏みながら主体性を強く求めるようになっていきますが、それがまだ十分育っていない低学年ではお家の方のご協力も当然必要になってきます。

コロナ禍初期に実施されたトヨタの入社式(2020年)で、元メジャーリーガーのイチローさんは「厳しく指導することが難しい時代に誰が教育するのか？それは自分自身です」「前進と後退を繰り返して、少しだけ前に進む。つまり、後退も成長に向けた大切なステップなんじゃないか」と述べています。

上矢作っ子の活躍

* 広重賞版画コンクール

恵那市議会議長賞 3年 伊藤優真

恵那商工会議所会頭賞 6年 太田花

奨励賞 1年 小木曾太一、片桐礼乃、4年 後藤大樹

入選 2年 荻山朔、3年 伊藤綾美、6年 横光育



3年 伊藤優真 作品